

科目名	保育の心理学	教員名	ほさか 保坂 かずたか 和貴	開 講	保育科	1年次	後 期
<p>・目的と内容</p> <p>保育の心理学は、人間の生涯にわたる身体的、精神的変化を「発達」という観点からとらえ、その過程や仕組みを研究します。保育や教育に携わるということは、なんらかの形で子どもの未来を思い描き、自分がそうあってほしいと望む姿に子どもが近づくようにと働きかけることを意味します。年齢ごとの思考や対人関係の特徴、より高次のレベルへの発達のメカニズムなどを明らかにする発達心理学の知見は、子どもがそれぞれどのような発達の状況におかれているのか、そしてどのような支援を必要としているのかをとらえる上で重要な手がかりとなるでしょう。</p> <p>この授業では、保育心理学 の内容を踏まえ、人間が生まれてから死ぬまでの一般的な発達過程を整理した上で、発達領域のなかでもいくつかの重要な側面に注目し、保育活動の中でそれらがどのように変化し、どのような支援が必要とされるのかを考えていきます。</p>							
<p>・授業計画 [ 単位数：1単位、授業週数：15回 ]</p> <p>[ 後期 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達の諸側面の理解と支援の方法</li> <li>2. 自己の育ちと発達</li> <li>3. ことばの発達 : 歌やリズム</li> <li>4. ことばの発達 : 絵本の読み聞かせ</li> <li>5. ことばの発達 : リテラシーとの出会い</li> <li>6. 表現の発達 : 描画</li> <li>7. 表現の発達 : 体験と表現</li> <li>8. 遊びを通じた発達 : 遊び活動の移行過程</li> <li>9. 遊びを通じた発達 : 自然物とのかかわり</li> <li>10. 認知の発達 : ピアジェ理論の理解</li> <li>11. 認知の発達 : ピアジェ理論の理解</li> <li>12. 文化的存在としての発達</li> <li>13. 保育者の発達</li> <li>14. まとめ 現代における発達の問題</li> <li>15. 後期試験</li> </ol>							
<p>・講義の進め方</p> <p>講義は基本的にパワーポイントを使用しておこなう。また、内容によっては、グループディスカッションやグループワークもおこなう。</p>							
<p>・試験と成績評価</p> <p>平常点と学期末試験により、総合的に評価する。</p>							
<p>・担当教員から受講生諸君へ</p> <p>人間の発達過程ほど複雑で興味深いものはありません。より幅広い視点から人間の発達の問題について考えてみましょう。</p>							
<p>・使用教材</p> <p>教科書：使用しない。 参考書：講義の中で適宜紹介する。</p>							